



准教授

于臣

ウシシ

国際戦略推進機構

教育人間科学部 国際共生社会課程

教育人間科学部 人間文化課程

大学院都市イノベーション学府 建築都市文化専攻

大学院都市イノベーション学府 都市地域社会専攻

yuchen@ynu.ac.jp

人文学
哲学

思想史

日中両国の経営倫理
実業家の国家観
経済人の社会論
現代中国の社会思想
儒学の現代的意義

【研究概要】

商人は往々にして「利」のみを貪り、「義」を知らぬ塊とされる。とりわけ、つい最近起きた食品安全の問題に関連し、商業倫理の問題は古くから問われつづけてきた課題であるにもかかわらず、研究者による新しい視座の提示が求められている。しかし、経済界の不正事件の多発は、単に経済人（個人、企業団体）自身のモラルの問題によるのみならず、政治・社会・経済体制とかかわりあっている問題である。そして社会体制における商人と社会、政府と民間（「官」と「商」）、個人と団体、国内と国外の関係等はすべて、経済人がいかに「義」と「利」、「公」と「私」の関係を処理するかによって決められる。本人は歴史を問う視座によって、日中両国の商人がいかに「義・利」「公・私」観念を抱いていたのかを再考し、経済倫理の問題を検討している。

【アドバンテージ】

近年、日中両国において、経済倫理の問題は注目され、研究が進められてきた。だが、管見するかぎり、再考すべき点がある。中国の場合、新しい倫理構築の根拠を西洋の倫理思想のみに追及する傾向が強い。日本の場合、歴史上の有名な経済人に対する強引な功利主義的解釈が目立つ。これらの研究現状に対して、本研究は東洋の倫理思想の源流を重視すると同時に、商人に対する体制側の行為に関する考察を試みる。

【事例紹介】

- ①新しい史料の発掘と分析を通して、日中両国商人の「義・利」「公・私」観念の生成、発展と変容の過程を時系列に明らかにする。
- ②国内外における近代の商人の会館、「行会」、商工業会議所などの商人施設に対して実地調査を行うことによって、両国の商人の実態に迫り、商人と政府および地域社会との関係を解明する。

■ 相談に応じられるテーマ

日中両国の経済発展と伝統思想との関係
歴史から見る国家と社会と企業との関係
中国人と伝統文化
日系企業と中国の現地社会との関係
中国人と社会主義市場経済

■ 主な所属学会

日本教育学会
日中社会学会
教育史学会

■ 主な論文

- 『近代日中実業界からみる民間外交の側面—南洋勸業会と近藤渡清実業団を中心に』『北東アジア研究』23号 2012.3
『梁啓超の国家論に関する一考察—国権、国民論を中心に』『横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ（人文科学）』12巻 2010.12
『近代日中両国の商業教育の特徴に関する一考察—福沢諭吉の教

育構想における「公・私」観を中心に』『東アジア文化交渉研究』2号 2009.3

『経世済民』からみる儒学と「啓蒙」との関係—西周と張謇の例を通じて』『北東アジア研究』17号 2009.03

■ 主な著書

- 「公共する人間2 石田梅岩 公共道徳の志を実践した町人教育者」（共著）東京大学出版会 2011.10
「近代東アジアの経済倫理とその実践—洪沢栄一と張謇を中心に」（共著）日本経済評論社 2009.3
「洪沢栄一と＜義利＞思想—近代東アジアの実業と教育」（単著）ベリカン社 2008.03